



第3節 出産・子育てに関する意識

- 夫婦の最終的な出生子ども数は減少している(出生力は低下している)。
- 子どもは「生きがいや希望」という意識が強く、子どもを2~3人持ちたいと考えている。
- 晩婚化の影響により、第1子出生時の母の平均年齢は30.3歳と上昇傾向。出産が遅れ、結果的に希望の子ども数を実現できないという状況が見受けられる。
- 出産の問題は、社会全体で考え、その担い手となる世代を支えていかななくてはならない。

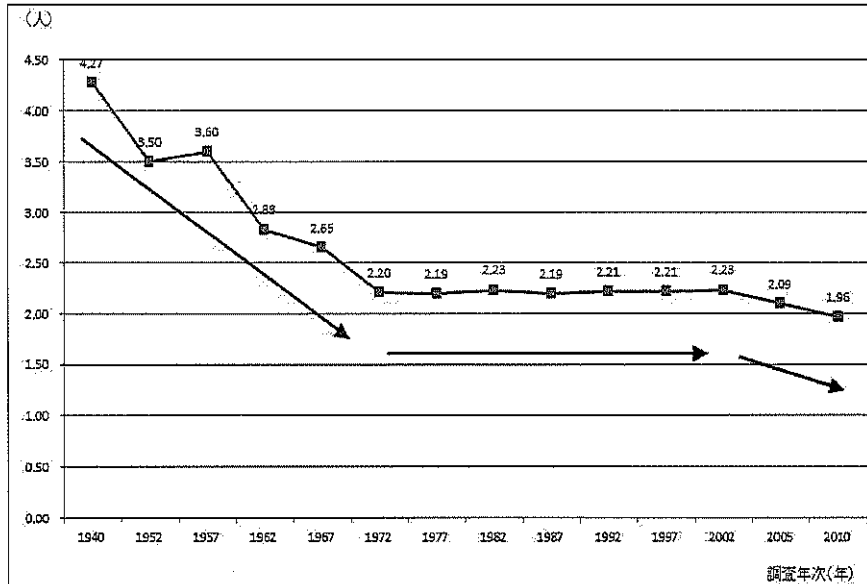
夫婦の出生力の低下

- 出生数は減少しており、夫婦の最終的な平均出生子ども数(完結出生児数)は低下傾向。(1972年2.20人→2010年1.96人)

子どもは2人以上欲しい

- 子どもは「生きがいであり、希望」という意識が強い。
- 理想とする子どもの数は2人を超えているが、約3割は実現できないでいる。

夫婦の完結出生児数



資料:国立社会保障・人口問題研究所「第14回出生動向基本調査(夫婦調査)」(2011年)
 (注):対象は結婚持続期間15~19年の初婚ごとの夫婦(出生子ども数不詳を除く)。
 各調査の年は調査を実施した年である。

出生数は25年間で約1.5人に減り



結婚へのハードル

▽結婚相手

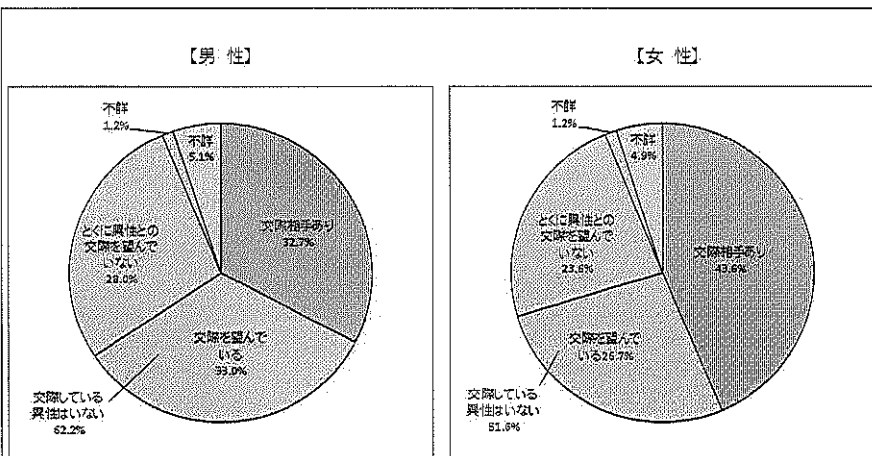
● 異性の友人もいない割合は男性で約6割、女性で約5割に上っており、結婚相手の候補となりうる交際相手がいる若者は限定的。

▽収入

● 無職や非正規雇用の労働者は正規雇用の労働者に比べて結婚意欲が低い。

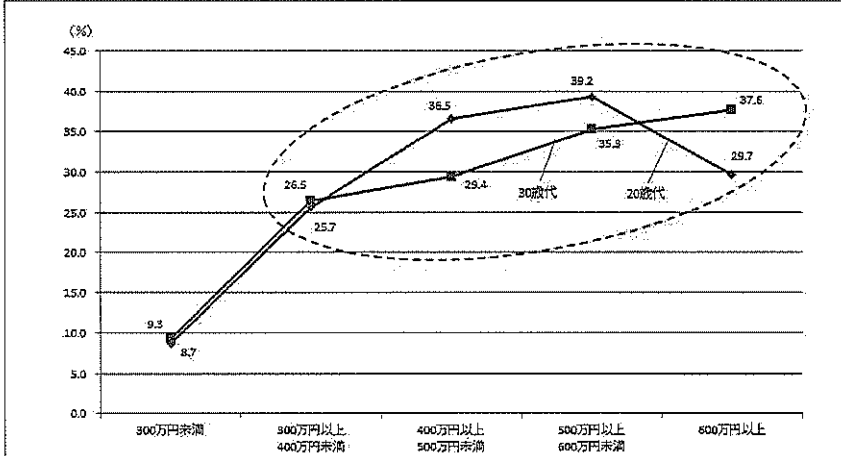
● 年収300万円未満では既婚率が1割に満たないが、300万円以上400万円未満では25%を超え、300万円が一つの壁。

未婚者の異性との交際状況



資料：国立社会保障・人口問題研究所「出生動向基本調査」および藤田(2019)より厚生労働省政策統括官付政策評価官室作成
 引用文献：藤田健司(2019)「30代後半を含めた近年の出生・結婚意向」ワーキングペーパーシリーズ(1)国立社会保障・人口問題研究所
 (注)1. 対象は18～39歳未婚者。
 2. 「あなたには、現在交際している異性がありますか。」という設問に対し、「婚約者がいる」、「恋人として交際している異性がある」及び「友人として交際している異性がある」と答えた者を「交際相手あり」としている。

年収別に見た、20歳代・30歳代男性の既婚率



資料：内閣府「結婚・家族形成に関する調査報告書」より厚生労働省政策統括官付政策評価官室作成
 (注)1. 調査対象は、20～39歳の男女、既婚者は結婚3年以内。
 2. 性別・年代・未婚者については、総務省統計局「国勢調査報告」(平成17年)をもとにウェイトバック集計
 3. 「300万円未満」は「収入がなかった」、「300万円未満」、「100万円以上200万円未満」、「200万円以上300万円未満」の合計
 4. 「600万円以上」は、「600万円以上800万円未満」、「800万円以上1,000万円未満」、「1,000万円以上」の合計

若者が望む結婚 ～子どもも仕事も～

● 結婚後の女性は働いてほしいと思う割合は男女共に増加。男性は家事・育児能力も求められている。